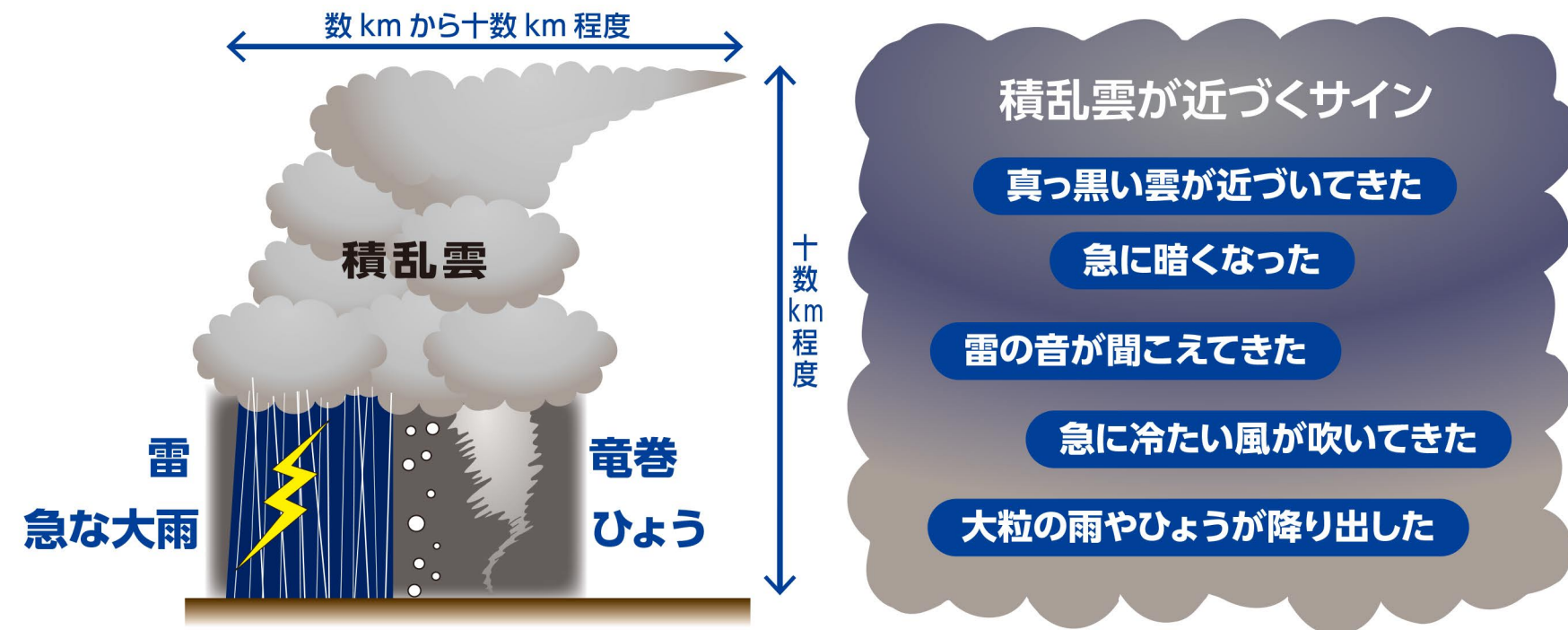


竜巻・雷対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。直径は数十～数百メートルで、数キロメートルに渡って移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。



「竜巻」が間近に迫ったら… いろいろな物が猛スピードで飛んできます!

屋外では

- 頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする
- 物置や車庫・プレハブの中には入らない
- シャッターを閉める
- 電柱や太い木には近づかない

屋内では

- 窓から離れる
- 窓やカーテンを閉める
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る
- 家の1階の窓の少ない部屋に移動する

電巻注意情報(気象庁) 

<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

竜巻に遭遇した人からは次のような声を聞きます。このような場合には、あなたの身に危険が迫っています。

雲の底から地上に伸びる漏斗(ろうと)状の雲を見た。

飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。

ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。

気圧の変化で耳に異常を感じた。

「雷」から身を守るには… 遠くで音がしたらすでに危険な状態です!

雷ナウキャスト(気象庁) <http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>



- ・グラウンドやゴルフ場、海の上などの開けた場所や、山頂などの高いところは危険!
- ・電柱、鉄塔などの高い物体には近づかないように!
- ・高い木の近くは危険! 2m 以上は離れてください!
- ・姿勢は低く、持ち物は体より高くしないように!
- ・建物や車の中は比較的安全な空間。
- ・木造建築物の中では、電気機器や壁から1m 以上離れば更に安全。
- ・雷の活動が止み、20 分以上経過してから安全な場所へ移動しましょう。



AEDの使い方

AEDは、日本語にすると「自動体外式除細動器」と言います。電源を入れ音声案内にしたがってパッドをはるなど簡単な操作を行うことにより、機器が自動的に心電図を調べて電気ショックが必要か判断し、必要な場合に電気ショックを行います。

1 電源を入れます。

音声の指示が始まります。

未就学児(およそ6歳まで)に使用する場合は、電気ショックのエネルギー量を切替スイッチで切り替えるか、小児用のパッドを使用します。

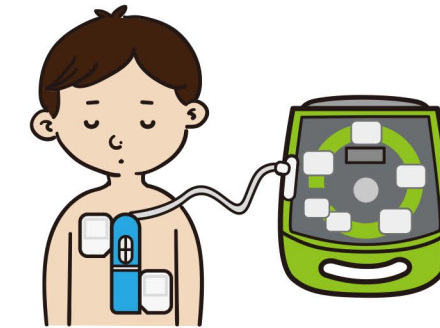
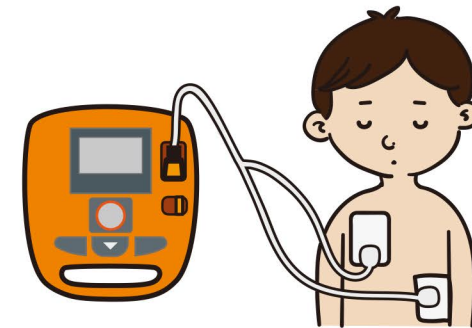


2 電極パッドを体にはります。

電極パッドをはる位置が描かれているので、イラストにしたがって装着してください。

2枚に分かれているパッド

一体型のパッド



!!パッドをはるときの注意点!!

- 汗などで胸がぬれている場合
..... 水分はふき取りましょう!

- 湿布などの貼り薬がある場合
..... パッドをはる部分は全部はがしましょう!

3 AEDが自動的に解析

AEDが自動的に心電図を解析し、電気ショックが必要か診断してくれます。

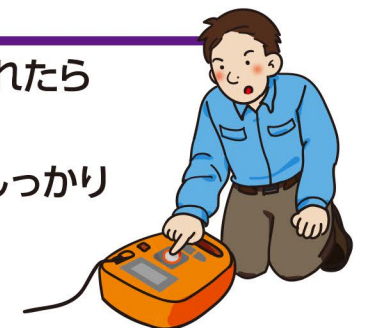
AEDが「心電図を解析します。はなれてください」と言ったら胸骨圧迫を止めてはなれます。



4 ショックボタン

「ショックが必要です。ショックボタンを押してください」などの音声流れたらショックボタンを押します。

電気ショックボタンを押すとき、自分やまわりの人が感電しないように、しっかりはなれましょう!



5 すぐに胸骨圧迫を

電気ショックのあとは、すぐに胸骨圧迫を始めます。AEDは2分ごとに電気ショックが必要かどうか診断してくれるので、電源は切らず、パッドもはがさないで指示にしたがいます。



人命救助には、AEDの操作法を含めた救命講習会の受講が大変重要です。児玉郡市広域消防本部で、AEDの操作法を含めた救命講習会を各場所で行っていますので、AEDを効果的に使用できるようにみなさん、ぜひ受講しましょう。